

はしがき

第二次世界大戦（1939 45）が終わり、自由主義世界のリーダーとなったアメリカ合衆国に、各国から寄せられる期待と重い責任がずしりとその肩にのしかかるようになる。ソ連を中心とした共産主義国との冷たいにらみ合いの始まりだ。だが、この冷戦は疑心暗鬼に色づけされた国際間の目に見えない戦いだけでなく、アメリカ国民にも新たな類の愛国心を強要するようになるのである。荒涼たるイデオロギーが対立するこうした世界においては勝利も栄光も、そして理想主義も存在しなかった。あるのはただ共産主義に対する嫌悪と恐怖であり、マッカーシー（Joseph McCarthy, 1908 57）上院議員に扇動され、アメリカ全土に吹き荒れた「魔女狩り」により人生を台無しにされた人々だった。このことは特にハリウッドの映画産業界において顕著であった。多くの人は知らない間に共産主義者としてブラックリストに載せられ、突然、職場を追い立てられた。この時代に製作された代表的なウエスタンも、そうした不安に揺れる神経症的な雰囲気の色濃く映し出している。不安と幻滅に被われた黄昏の西部に、男が独り馬の背に乗り荒野を駆けてやってくる。彼はヒーローであり、拳銃の使い手という才能により、他の人とは分け隔てられている。すなわち、彼は孤独な一匹狼なのだ。極めて象徴的なこの手の最初の作品が、グレゴリー・ペック（Gregory Peck, 1916 2003）が主人公のリングを演じた『拳銃王』（*The Gunfighter*, 1950）である。

リングにはぎやかな町へ到着するや、鍛冶屋、雑貨店、銀行を通り過ぎ、馬を降りて酒場へと大股で歩いて行く。ドアを押し開けて一瞬立ち止まり、鋭い目つきで辺りを静かに見回す。突然会話が止み、カウンターで強いウイスキーをあおっていた荒くれ男どもが振り返って彼に視線を向ける。店の片隅でピアノを演奏していたピアノ弾きが空気の変化に気づき、演奏をやめる。すべての人間の目が男に注がれる。しかしながら、人々は彼の顔を見ているわけではない。腰に巻きつけられたホルスターに収まった拳銃を見つめているのだ。この見ず知らずの男は一体どこから来たのだろうか。もちろん酒場の男たちは知る由もない。彼は伝統的な西部の拳銃を身に付けてはいるが、しかし、ウィリアム・ハート（William S. Hurt, 1865 1946）やトム・ミックス（Tom Mix, 1880 1940）たちが演じてきた拳銃だけで生活できた時代のガンマンではない。社会の変化に対応して自らの生き様を変えようとする男なのだ。だが、西部きっての早撃ちとしてその名声が津津浦浦まで行き渡っている彼は、行く先々で彼の命を奪って名声を上げようとするチンピラに付きまとわれる。銃を捨て、どこかで小さな牧場を手に入れて、妻子と共に静かな人生を送りたいと心から願っているが、そのささやかな夢はかなえられない。そればかりか、市民の生活の輪に加わることさえ許されないのだ。こうした彼の孤独を強調するために、物語のほとんどが酒場で展開する。人々が集い、仲間うちでヒソヒソ話の音が充満する酒場における孤独ほど、人の孤独感を深めるものはない。この映画における過去と決別し、新しい人生を模索しようとする拳銃使いは、やがてウエスタンのなかで最も重要な作品の1つとされるゲーリー・クーパー主演の映画『真昼の決闘』（*High Noon*, 1952）、そして『シェーン』（*Shane*, 1953）へと受け継がれていくのである。

『陽のあたる場所』(*A Place in the Sun*, 1951) や 『ジャイアンツ』(*Giant*, 1956) などの名作を世に送り出した監督として知られるジョージ・スティーブンス (George Stevens, 1904 75) の『シェーン』も同じく孤独なガンマンを主人公に、マッカーシズムの陰鬱な世界を色濃く映し出した作品だ。ジャック・シェーファー (Jack Schaefer, 1907 91) が1949年に発表した、暴力とヒロイズムを語った同名の小説が原作のこの映画は、鮮やかな緑が映える美しい山脈の彼方からバックスキンの上に身を包んだ一人の男がやって来る場面から始まっている。平和な家庭を探し求めて旅をする孤独な香りを漂わせたこの男の名はシェーン。だが、ふと立ち寄った開拓農民のスターレット家で、その家の主人と近くの農場主との対立に図らずも巻き込まれてしまうのだ。銃を捨てたいと願っていた彼ではあったが、一宿一飯の恩義から牧場主ならびに彼が雇った殺し屋と戦う羽目になるのである。壮絶な銃撃戦の末、悪党をあの世へ送ったシェーンは彼の愛馬にまたがると、再びもと来た彼方にそびえる山々へ立ち去っていく。二度と銃は使うまいとの固い誓いを破った彼は、一家のもとを去らねばならなかった。美味しい料理と独立記念日を祝うスターレット家が象徴する文明は確実に西部を支配し始めている。もはや地元を牛耳る牧場主の実力者や孤独なガンマンの時代ではないのだ。シェーンの悲しみは、彼が飛び込んだ文明の社会にとどまれないばかりか、見つけた新しい家庭に入り込むことも出来ないことだ。映画のラストシーンで己の運命を静かに受け入れ、遙かなる山並に向かって立ち去っていくとき、シェーンの名を呼び続ける新しい時代を生きるジョーイ少年の過去の時代に対する夢は終わった。だが、ここで忘れてならないのは、この映画における孤独な男シェーンは、悪党に苦しめられる善良な開拓者たちを救う伝統的な西部のヒーロー以上の意味を持っているということだ。スターレット家の主であるジョーにとってシェーンは頼もしい相棒であり友人だった。その幼い息子ジョーイにとって彼は夢の実現を、そしてスターレット夫人にとっては彼女の夫に対する愛を危険にさらす要注意人物でもあった。ジョーイの賞賛やスターレット夫人の愛など、望めば全てをいとも容易に手にすることが出来るはずだが、皮肉にも、猜疑、不安、恐怖に揺れる暗黒の社会において到底見出すべくもない愛と善意、そして自己犠牲的精神に、彼は満ち溢れすぎていた。

荒野の中から忽然と現れ、やがて一陣の風のごとくいずこへともなく去っていったガンマン、シェーンを演じたのはフィッツジェラルド (F. Scott Fitzgerald, 1896 1940) の小説の映画化作品『暗黒街の巨頭』(*The Great Gatsby*, 1949) で喝采を浴びたアラン・ラッド (Alan Ladd, 1913 64) だ。実直で剛健な農夫スターレットは *Johnny Eager* (1942) でアカデミー助演男優賞を受賞しているヴァン・ヘフリン (Van Heflin, 1910 71)、その妻マリアンは『スミス都へ行く』(*Mr. Smith Goes to Washington*, 1939) で好演したジーン・アーサー (Jean Arthur, 1900 91)、そして少年ジョーイは、わずか30歳という若さで交通事故によりこの世を去ったブランドン・デ・ワイルド (Brandon De Wilde, 1942 72) がつとめている。1954年3月26日、RKO パンテイジズ劇場で行われた第26回アカデミー授賞式では、『ローマの休日』(*Roman Holiday*, 1953) や『地上より永遠に』(*From Here to Eternity*, 1953) など、多くの強豪がひしめく中、作品賞、監督賞、脚色賞、撮影賞(カラー部門)、助演男優賞 (B. Wilde & J. Palance) の5部門にノミネートされ、見事、撮影賞に輝いた。物語の最後でジョーイが叫んだ *Shane, come back!* のセリフとともに、いつまでも私たちの記憶に残る、ウエスターンのジャンルを超えた名作中の名作である。

PARAMOUNT PICTURES 1953 (118 minutes)

CREDITS

Directed by ... George Stevens
 Produced by ... George Stevens
 Music by ... Victor Young
 Screenplay by ... Alfred Bertram Guthrie Jr.
 Based on the novel by ... Jack Schaefer

CAST

SHANE ... Alan Ladd
 JOE STARRET ... Van Heflin
 MARIAN STARRET ... Jean Arthur
 JOEY ... Brandon de Wilde

監督ジョージ・スティーブンス

ジョージ・スティーブンスは1904年12月にカリフォルニア州オークランドで生まれた。父親が無名の役者だった影響もあり、彼自身も5歳で舞台に立つなど、映画界への軌跡は幼い頃から始まっていた。その後、映画界で成功することを夢見て17歳でロサンゼルスに向かう。

20年代はカメラマンとしてハル・ローチスタジオで働き、30年代には、主に娯楽映画を製作し、監督としての成功を収めていく。40年代には戦意高揚映画に携わり、戦争を目の当たりにしたことから、戦後は人間の内面を描くようになる。

そして、戦後彼の名声をいっきに高めた作品が、『陽の当たる場所』（1951）である。この作品は、アカデミー賞で6部門受賞し、興行的にも成功した。

この作品を契機に、彼は社会で孤立するアウトサイダーを描いていく。その代表作の一つが『シェーン』である。彼のアウトサイダーへの情熱は、1975年に心臓発作で亡くなるまで衰えることがなかった。

アラン・ラッド

アラン・ラッドは、1913年アーカンソー州で生まれた。幼い頃は新聞を売りながら家計を助けていた。スポーツが得意で、高校時代はダイビングの選手などで活躍していたが、結局スポーツではなく、芝居の世界に入る。

その後長い下積み生活を経て、端役でいくつかの映画に出演した後、『シェーン』で一躍スターになる。

しかし、これ以後は作品に恵まれず、人気も低迷。それに伴ってノイローゼになり、極度のアルコール依存症と薬物中毒に陥る。1964年にバーム・スプリングスの別荘で亡くなった。

ヴァン・ヘフリン

ヴァン・ヘフリンの大地にしっかりと根を下ろした無骨さは、シェーンを演じたアラン・ラッドの女性的ともいえるしなやかさと好対照だ。『シェーン』での農夫という役柄からは意外な気もするが、幼いころから海に魅せられ、まず第一の夢は水夫になることだったという。実際に東洋やアラスカなど世界中を航海していたこともあった。アラン・ラッドとは撮影終了の後も交流が続き、精神的に不安定な時期もあったラッドを支えた。1936年の *A Woman Rebels* で映画俳優としてデビュー。1942年には *Johnny Eager* でアカデミー最優秀助演賞を受賞。

ジーン・アーサー

美しくやさしい母であると同時に二人の男性の間で揺れる「女」マリアンを好演したのはジーン・アーサー (1900-91)。写真のモデルをしているときにスカウトされて1923年に映画デビュー。1930年代に流行した「スクリーンボールコメディ」の中心的な女優となったが、舞台女優に専念するために映画界から引退する。復帰後に出演した映画は二本だけで、そのうちの一本『シェーン』が彼女の最大のヒットとなった。自分の顔は左側からだと一番美しく見えるからと、撮影の時には常に左から撮影されるように気を配っていたという。『シェーン』ではどうだったろうか？

ブランドン・デ・ワイルド

概して名子役はいつまでもそのイメージから抜け出せずに苦勞する。『シェーン』でアカデミー助演賞を受賞したブランドン・デ・ワイルドもその例にもれず、端正な顔立ちに加えて20歳を過ぎても小柄だったのが災いした。「40歳で性格俳優としてやっていけるなら映画界へ戻る」というミュージシャンへの転身をはかったこともある。ビートルズの影響で、ザ・バーズのグラム・パーソンズと組んで一度レコーディングしたが、やはり俳優はやめられなかった。1972年、30歳のとき自動車事故で亡くなってしまい、「性格俳優」の夢は果たせなかったが、数多くの映画やテレビドラマで活躍した。ちなみにパーソンズはデ・ワイルド追悼の歌を作っている。

ジャック・パランス

独特な顔立ちで西部劇の悪役として名を馳せたパランスだが、その顔には二度の手術のあとがある。プロボクサー時代に鼻を骨折しプラスチックを入れたのが一度目。二度目は第2次世界大戦中、B-24爆撃機の火災で顔に重症を負って整形手術をしたとき。見覚えのある顔だが、*Ripley's Believe It or Not* のホスト役、あるいはジャック・ニコルソンの『バットマン』(1989) で見たことがあるからかもしれない。数多くの映画に出演したが、『ゲバラ!』(1969) のカストロ役は押さえておきたい。また71歳のとき『シティ・スリッカーズ』(1991) でアカデミー助演賞を受賞。体力自慢のパランスは授賞式で片手腕立て伏せを披露した。2006年、老衰のため87歳で亡くなった。

CONTENTS

はしがき	iii
CHAPTER 1 Somebody's Coming, Pa	1
<i>Exercise</i>	9
CHAPTER 2 Do You Have Any Soda-pop?	11
<i>Exercise</i>	18
CHAPTER 3 I Told Shane To Stay Away From Trouble	20
<i>Exercise</i>	27
CHAPTER 4 You Have Had Enough Of It	29
<i>Exercise</i>	37
CHAPTER 5 Mother, I Just Love Shane	39
<i>Exercise</i>	46
CHAPTER 6 Something I Can Do You For?	48
<i>Exercise</i>	54
CHAPTER 7 Do You Think That Was Wilson?	56
<i>Exercise</i>	62
CHAPTER 8 Ryker Did It!	64
<i>Exercise</i>	70
CHAPTER 9 Don't I Mean Anything To You?	72
<i>Exercise</i>	78
CHAPTER 10 Shane! Come Back!	80
<i>Exercise</i>	87
『シェーン』の魅力	89
『シェーン』とフォークソング	90
ホームステッド法	91

CHAPTER 1

EXT. JOE STARRET'S RANCH - DAY - *Joey takes aim at a stag as it feeds on grass. An approaching rider startles the stag and scares it away. The boy's mother can be heard singing in the cabin.*

SONG: Bright stars glittered
On the banks the pale moon shone
And 'twas from Aunt Dinah's quilting party
I was seeing Nellie home
I was seeing Nellie home
I was seeing Nellie home
And 'twas from Aunt Dinah's
I was seeing

glitter ぴかぴか光る、きらきら輝く

bank (丘などの) 斜面、坂、土手、堤防

'twas = it was

Aunt Dinah's quilting party ダイナおばさんのキルティング・パーティ 有名なアメリカ民謡。同タイトルのカントリー・ミュージックがある。キルティングは手間のかかる手芸であり、グループで行われることが多い

I was seeing Nellie home ネリーを家に送り届ける see someone home で「人が家に着くのを確認する、人を確かに家に送り届ける」



Joey runs to tell his father, who is chopping an old tree stump, about the approaching rider.

JOEY: Somebody's coming, Pa.
JOE: Well ... Let him come.

Pa (口語)おとうちゃん motherの場合は ma

Shane crosses the river and approaches the cabin.

SHANE: Hope you don't mind my cutting through your place.
JOE: No, I guess not.
SHANE: I'm heading north. Didn't expect to find any fences around here. Hello, boy. You were watching me down the trail quite a spell, weren't you?

Hope you don't mind ... 文頭の I が省略。また mind は「~をいやがる、いやだと思ふ」の意で、通例、否定・疑問文で用いられる **No, I guess not.** = No, I guess I don't. (いや、そうは思わない)
head (~に向かって)進む
quite a spell = quite a while (しばらくの間)



- JOEY: Yes, I was.
- SHANE: You know. I ... I like a man who watches things go on around. It means he'll make his mark someday. Been a long time since I've seen a Jersey cow.
- JOE: Well, you'll see a lot more. Jerseys and Holsteins ... and the like. Can I offer you some water?
- SHANE: Thanks.

Shane gets off his horse. The sound of Joey cocking his rifle surprises him, making him quickly turn and reach for his revolver.

- JOE: You're a little touchy, aren't you.

a man who watches ... 「watch + O + 動詞の原形」で「O が ~ するのを見守る、見つめる」。また go on round は「(事態などが) 続く、(ものが) 存続する」

Been a long time 文頭の It has が省略

Jersey cow ジャージー牛 牛の品種のひとつ。乳牛として飼育される。イギリス領海峡諸島のジャージー島原産

Holsteins ホルスタイン牛 牛の品種のひとつで、名前はドイツのシュレースヴィヒ = ホルシュタイン州にちなむ。日本では主に乳牛としてのイメージが強いが、欧州では肉乳両方を目的として肥育されている

and the like その他同種類のもの and so forth / on などよりも形式ばった言い方

touchy 怒りっぽい、短気な



Joey's mother calls from the cabin window.

- MARIAN: Joey! You know better than to point guns at people.
- JOEY: I wasn't pointing at anybody, Mother.
- SHANE: Sure had me snortin', son.
- JOEY: I just wanted you to see my rifle. Bet you can shoot. Can't you?
- SHANE: Little bit.
- MAN: Giddup!

know better than to... ~しないくらいの分別がある know better は「もっと分別がある、わかまえている」

Sure had me snortin' = Sure you had me snorting sure は口語で用いる副詞で「確かに」 snort (軽蔑、驚き、不同意などで) 鼻を鳴らす。have ここでは使役動詞で「人に ~ させる」

Bet you can shoot 文頭の I が省略。bet は「~ であると主張する、断言する」

Giddup そら行け 馬などにかける掛け声で「進め」の意。get up が変化したものと考えられる

giddap, giddyap, giddyup ともする

Everyone turns to watch a party of riders approach.

- JOE: Looks like your friends are a little late. What are the Ryker boys up to this time?
- SHANE: Rykers?
- JOE: That's what I said.
- SHANE: I wouldn't know a Ryker from your Jersey cow.
- JOE: Don't forget to close the gate on your way out.
- SHANE: Would you mind putting down that gun? Then I'll leave.
- JOE: What difference does it make? You're leaving anyway.
- SHANE: I'd like it to be my idea.

Looks like... 文頭の It が省略
the Ryker boys ライカー一味
the boys 「男仲間、男連中」
be up to (よくないこと)に取り
かかって、を企んで

a Ryker ライカー一味の一人
Don't forget to do 忘れずに～
する 動詞 forget は目的語が不
定詞か動名詞かで意味が異なるの
で注意。cf. forget ...ing (～した
ことを忘れる)

on one's way out (人)が出てい
く途中で

Would you mind ...ing? ～して
くださいませんか? 丁寧な依頼
表現で Do you mind ...? よりも丁
寧度が高い。「はい、構いませんよ」
と承諾する場合は No、「いいえ、
したくありません」と、依頼内容
を却下する場合は Yes で返答する

Joe lowers his rifle. Shane mounts his horse and heads for the gate behind the cabin.



- MORGAN: Howdy, Starrett. Expectin' trouble? (laughing) Heh heh heh heh heh.
- RUFUS: I don't want no trouble, Starrett. I came to inform you. I got that beef contract for the reservation.
- JOE: Did it take this many of ya to tell me that?
- RUFUS: I mean business.
- JOE: Then, you tend to your own.
- RUFUS: That's just what I'm doin'. I'm telling you now I'm gonna need all of my range.
- JOE: Now that you've warned me, would you mind getting off my place?
- RUFUS: Your place? You're going to have to get out before the snow flies.
- JOE: And supposin' I don't?
- RUFUS: You and the other squatters.
- JOE: Homesteaders, you mean, don't you?

Howdy? = How do you do?; How are you?; Hello

Expectin' trouble? 文頭の Are you が省略

reservation (特にアメリカ先住民のための)特別保留地

take 必要とする It takes + O + to do で「～するのに～が必要である、かかる」。it は to do の形式主語とも取れなくはないが、非人称の it と考えられる

this many ここでの this は副詞で「これほど、こんなに」

tend to... ～に気を配る、に注意する

doin' = doing ナチュラルスピードでは語尾の g 音はしばしば消える

gonna = going to gonna は書き言葉としては非標準的

range (大きな)放牧場、牧場

Now that you've warned me この場合の now は接続詞。しばしば that を伴って「今や～であるからには、～である以上は」

supposin' = supposing 接続詞で仮定を表し「もし～ならば」

squatter 不法占拠者 所有権を得ようとして所有者がいない新開拓地に定住する人

Homesteader (自作農場を与えられている)入植者

